

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）

第8回年次総会

(2011年10月4日、京都)

声明

(仮訳)

1. STSフォーラム（特定非営利活動法人、本部：東京都千代田区、理事長：尾身幸次）は、2011年10月2日から4日にかけて第8回年次総会を開催、約80の国・地域・国際機関からおおよそ800名の科学技術、政治、ビジネス、メディア各界の世界的なリーダーが一堂に会した。
2. 東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故は、日本に重大な衝撃を与えた。全世界が、これらの災害に対し日本人々が示した冷静さ、立ち直る力、尊厳さを賞賛している。東京電力福島第一原子力発電所事故は、人類の未来に向けて原子力の問題にどのように立ち向かうかという問題を提起した。我々は、今年のフォーラムの重要なテーマとして、「エネルギーと環境」、「原子力の安全性と将来の発展」を取り上げた。
3. 将来のエネルギー供給に関しては、安全に関する最良な基準、環境と社会の両面からの適合性及び一般の人々の手に入る価格であることを前提に、幅広いオプションがあるべきである。国によって将来のエネルギー確保への道は異なる。原子力は当面、引き続き重要な役割を果たす。原子力安全の強化と核セキュリティ対策は非常に重要であり、原子力安全と核セキュリティに関する国際協力を強化する必要があることが合意された。
4. 世界的な保健問題については、ゲノム医療と再生医療に関する研究が急速に進展にしている。このような状況において、オーダーメイド医療と予防医療に関する研究もより一層推進されるべきである。途上国における感染症と非伝染性疾病への対応能力を強化すべきであり、民間、公的機関及び世界保健機構（WHO）間の国際協力の一層の推進のために新しい国際的なシステムが必要である。
5. 高齢化は、高齢者医療・介護や社会的なセーフティーネットを提供するだけでなく、高齢者の生産的な市民としての社会参加という社会的状況の見直しを迫っているという点で、我々にこれまでに例のない課題とチャンスを示している。科学技術は後半生の生活の質の向上に重要な役割を果たしている。
6. 既に世界の人口の半数以上が都市に居住し、都市化が急速に進んでいることが様々な課題とチャンスをもたらしている。科学技術と都市計画を活用した効率的な「スマート・シティ」により、市民自身も対象とした、住みやすく人にやさしい都市環境の整備を推進しなければならない。

7. 90億人から100億人にのぼる世界の人口に食料を提供し、地球を破滅させる飢餓を撲滅するためには、農業をさらに進化させることで、増加する人口、食生活の変化及び環境保護という問題に対応する必要がある。栄養価が高く、気候変動に対し今まで以上に弾力性のある作物の品種開発、農業システムの改善、生態系の維持管理及び廃棄物の削減には研究開発が不可欠である。遺伝子組換作物を含む農業分野のバイオテクノロジーがこれらの改善に貢献すべきである。特に母親と新生児にとっては、バランスの取れた栄養が健康を増進し、死亡を減少させている。
8. 海洋と異なり、不十分ではあるものの、新鮮な水の確保及び森林保護の問題について世界的な関心が示されている。従って、世界的な関心が低い海洋問題を検討し、海洋に焦点をあてた政策立案を行う国際団体の設立を提案する。この団体は、世界的な海洋政策を推進するために、世界で実績のある海洋科学コミュニティや政策コミュニティと協働し、海洋に関する知識を政策立案者に分かり易く伝えるとともに科学者と政策立案者の間の意見交換を促進することが期待されている。
9. 効果的な情報通信面のインフラ整備が、教育、医療及びビジネス・チャンスにおける国内外の格差是正にとって重要である。情報通信技術をめぐる急激な環境の変化のなかで、サイバーセキュリティとプライバシーの問題を見直すことは将来の情報通信技術に非常に重要である。
10. ナノテクノロジーは、エレクトロニクス、製薬、ライフサイエンス、物質・材料等の様々な分野で非常に重要な役割を果たしており、新しいフロンティアを切り拓く可能性のある技術であるため、積極的に活用すべきである。
11. 産学官連携は経済社会の活力の維持に貢献している。大学及び研究機関については、理工教育とともに、基礎研究及び先進的な研究開発の成果を社会に提供してイノベーションを振興することが期待される。大学は、人文科学と自然科学を結ぶハブであり、批判的思考法を促進し、学生に責任能力のある地球市民となる準備をさせる機能を有する。
12. 今年初めて、STSフォーラムで世界の工学アカデミー会長による会合が開催された。工学アカデミーは科学技術と社会との結びつきを強化することが期待されている。
13. 科学技術外交を推進し、国境を越えて科学コミュニティ間の関係を強化することにより、国家間の対話と相互理解の新しい道を作る必要性が確認された。
14. 資金配分機関（Funding Agency）は科学分野の国際協力関連プロジェクトに対して財政支援を行い、特に地球的課題について多国間提携を促進すべきである。教育、研究及び地域の起業家を支えることは発展途上国の人材育成に不可欠である。
15. STS フォーラムの付属セッションであるの地域気候変動セッションでは、地域の特性に

応じた行動をとるため、科学、地域コミュニティ及び政策決定者を動かす知識と行動のネットワークのベストプラクティスを見直した。このような地域と行動のネットワークは世界の気候変動の深刻な影響の脅威にさらされているすべての場所で組織されるべきである。

16. 公共政策の問題に関して科学技術の光と影の問題に取り組んでいる科学者や研究機関によるコミュニケーションの向上と並んで、メディアが客観的で科学的な事実に基づく報道をすることが重要である。また、科学者とメディアの継続的な対話を促進することも非常に重要である。
17. 人類の深刻な問題を解決するために科学技術が十分に力を発揮するには、個人及び社会の行動を大きく変化させることが不可欠である。社会科学、人文科学及び社会のイノベーションがこの分野で重要な役割を果たしている。資源が無限でないことを認識し、この限りある資源をより効率的に使用していくためには市民への啓蒙が必要である。
18. 人類が地球上で存続し繁栄し続ける上で持続可能性が不可欠である。このことは、自然と調和して生活することを意味し、人類にとって非常に重要なことある。このため、これからもSTSフォーラムの主要議題として持続可能性に焦点を当てていく予定である。
19. STSフォーラムの後援によって現在行われている科学技術の問題に関する様々な利害関係者と世界のリーダー間の意見交換が重要となっており、STSフォーラムは単なる会議から運動へと発展しつつあることが明確になっている。
20. 人類のより良い未来の建設に貢献するためにこの場で再会することを確認した。STSフォーラムは第9回年次総会を2012年10月7日（日）から9日（火）まで開催する。

以上

お問合せ先：NPO 法人STS フォーラム本部  
事務局長：芹澤 ゆう / 広報担当：遠藤典子、吉川玲子、濱田安芸子  
Tel. 03 3519-3351 / Fax 03 3519-3352

[press@stsforum.org](mailto:press@stsforum.org) / [www.stsforum.org](http://www.stsforum.org)